



厚岸町の基幹産業は酪農と漁業で、厚岸湖においては明治以降牡蠣の養殖が行われていました。上流域では、明治以降の開拓のための失火等から山火事が頻発し、湿原に囲まれているため通行が困難なことから消火活動



パイロットフォレスト

釧路湿原森林ふれあい推進センターです。当センターでは、地域の方々を対象とした森林環境教育等を行っています。先般、パイロットフォレスト（以下、PF）の下流域にある厚岸中学校の一年生がPFへ学習に訪れたのでその概要を紹介いたします。



望楼からの樹海見学

が出来ず、森林が荒廃しました。このような森林の荒廃による厚岸湖の水質の変化のため牡蠣の生産が中断に追い込まれた時期がありました。昭和31年に始まった、1万haに及びPFの造成事業には幾多の困難が待ち受けていましたが、持ちこたえていく技術に創意工夫を加えて困難を克服し、現在は湿原を除く区域のほぼ全域がカラマツ人工林を主体とする森林で占められています。森林が再生されて、下流域の水質が改善された結果、厚岸湖の牡蠣の養殖も再び可能となりました。

厚岸中学校では、このような森林の働きと普段目に見えない林業の現場を学ぶために、厚岸湖に注ぐ別寒辺牛川の上流に位置するPFを訪れました。生徒は、PFの造成についてのDVDを視聴した後、森林の洪水を防ぐ働きや土砂の流出を防ぐ働き等の「公益的機能」についての講義を聞き、その後、PFにおける森林の保全管理や森林火災の監視を行うために設置した望楼（高さ24.4m）に上がり、カラマツ樹海見学と、遙か羅臼岳や阿寒連山の遠望を楽しみました。更には近隣で水がわき出ている場所を視察し、見渡す限りのカラマツ林と森林の水資源かん養機能の偉大さに感激していました。

また、野外学習においては手鋸を使用するの枝打ち作業を行ない、最初のうちは手鋸が枝に挟まり手こずる生徒もいましたが、段々と使い方も慣れ短時間で予定の作業を終え、すっきりしたアカエツ造林地を見てご満悦の様子でした。厚岸湖の牡蠣の生産の復活には、森林が関わっていることを生徒達も話としては理解していましたが、森林は川の水量を安定させたり水質を改善するなどの様々な働きを通じて、私たちの生活に密接に係わっていることをより具体的に学び、生徒たちは興味を深めていた様子でした。



望楼前にて記念撮影